



感染症週報

令和7年12月1日発行



小笠原での流行状況

第48週（11月24日から11月30日まで）

父島 不明発しん症の報告がありました。

母島 インフルエンザの報告がありました。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

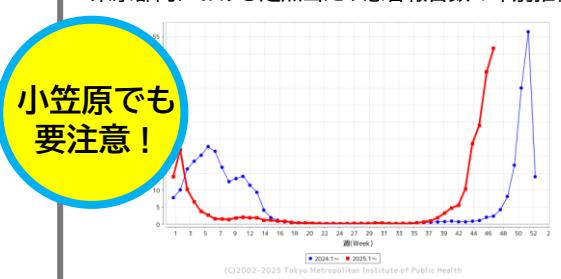
東京都全体での流行状況

第47週（11月17日～11月23日）

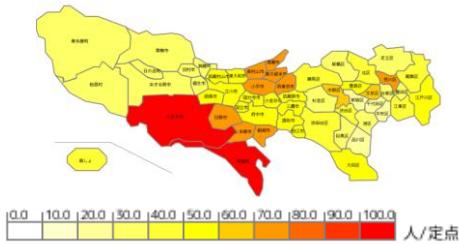
警報・注意報

- インフルエンザ 警報レベル
(定点患者報告数 51.69)

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



都内の保健所別定点当たり患者報告数(第47週)



【ピックアップ】

- 百日咳 まだまだ注意が必要です
(累計患者数 6,863人)
- 感染性胃腸炎
(定点患者報告数 5.59 ↑)

感染症メモ

インフルエンザの“本家”は人ではなく水鳥（カモ類）で、世界中へウイルスを運ぶ自然宿主です。人の流行の裏側には、渡り鳥の大移動というグローバルな背景があります。また、インフルエンザは多くの動物にも感染します。ブタは鳥と人の両方のウイルスが感染するため“混ぜ合わせの器”になり、新型インフルエンザの誕生源として知られています。ほかにも、ウマ・アザラシ・クジラ・パンダなど意外な動物に感染例があり、特にフェレットは人と似た症状を示すため研究の主要モデルとなっています。毎年少しずつ姿を変えるインフルエンザですが、その背景には、人・鳥・哺乳類をまたぐ大きな生態系ネットワークがあり、私たちの流行もその一部として成り立っています。



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所